書き抜き読書ノート 2514	2023 年 3 月 30 日

山口寿一他著「ほん の きもち です 2022 ―本を贈られる喜び、贈る楽しみ―」2021 年 12 月 15 日刊を読む

本を贈られる喜び、贈る楽しみ

1．『不思議の国のアリス』の原作が、作者ルイス・キャロルの手書きの本の贈り物だったことをご存じでしょうか。

2．オックスフォード大学で数学を教えていたキャロルことドジソン先生は、７月のある日、大学の学寮長の３人の娘たちと一緒にテムズ川をさかのぼるボート遊びに出かけ、ボートの上で即興のお話を聞かせました。

　耳を澄ます姉妹の中でも、まん中の 10 歳のアリスがとりわけ夢中になりました。お話の主人公の名がアリスだったからです。アリスからこの日のお話を書き留めてくれるようせがまれたキャロルは、それから２年半かけ、手書きの文章に手書きの挿し絵を付けて、手作りの本をアリスにプレゼントしました。

3．ウサギを追って穴に落ちたアリスがさまざまな冒険をする物語。一人の少女にささげた手書きの本が、のちに書き改められ、ファンタジーの世界の扉を開く作品となったのでした。

　本を贈るのは素敵なことです。本を贈られた子どものころの思い出を覚えている方は多いでしょうし、大人になって信頼する人から本を薦められ、ありがたく感じた方もたくさんいらっしゃるでしょう。

4．阿刀田高さんは、気軽に本を贈ることを勧めています。確かに、何ごともどんどん便利になる今の時代に、本を重々しく扱うとますます本は遠ざけられてしまいそうです。

5．キャロルが生きたビクトリア朝時代は、産業革命が勢いづき、科学技術が急速に進み、現代とよく似ていました。その時代にアリスから「もっとノンセンス(でたらめ)を」とねだられるまま、気軽に(自由に)即興の話を語り、手書きの本を贈ったのですから(大変な手間はかかっていますが)、『アリス』はギフトブックの原点だったといえるのかもしれません。

6．読むことを重ねると話す力、書く力は自然と身につきます。人生を豊かにするために、文字文化・活字文化を育てていくためにも、大切な人に本を贈る習慣が楽しい文化として定着していくことを願っています。

P6 ～ 7

＜コメント＞

　公益財団法人文字・活字文化推進機構理事長で、読売新聞グループ本社代表取締役社長である山口寿一氏の「本を贈られる喜び、贈る楽しみ」は、どちらも「人生の喜び、楽しみ」といえます。少しずつでも実行に移して参りましょう。

2023 年 3 月 30 日(木)林明夫